

1. 調査の目的

入学直後から大学の学修内容・進度に適応することが難しいと考えられる学生、専門分野への興味・関心が薄れている学生を早期に把握し、適切に指導する必要があることから、それらの具体的な施策を検討するために、退学者及び原級者の単位修得状況や授業への出席率等の現状を把握することを目的として調査を実施した。

2. 調査対象

2014年度に退学、原級（留年）した学生

3. 調査結果の提供先

副学長（教育担当）、教育支援機構

4. 調査内容

- ① 関門制度（進級条件を満たせない場合は当該学年に原級する）の対象科目における単位修得状況（主に1年次必修科目）、及び当該科目の出席状況の調査
- ② 退学者の退学理由、入試種別、学問系統、退学時学年／在学年数の調査
- ③ 原級率の高い学科を対象とした対象者の詳細調査（学籍データ及び年度初めの面談結果等から）

5. 調査結果の概要

「入試種別・結果」「単位修得状況」「成績評価内容」「授業への出欠席状況」「退学及び原級のきっかけとなった原因」等について、一定の傾向やそれぞれの相関関係がみられた。

6. 施策への反映結果

教育支援機構において、本調査の結果をもとに「退学者・原級者を減少させるための実施策」の検討を行い、『担任制』『低出席率者との面談』『成績不振者との面談』のフォロー体制を構築した。

とりわけ、本調査の結果は各学科において、面談（フォローアップ）の対象とする学生の要件設定や指導の時期等の検討において参考とされた。

また、対象学生と面談を行った教員は、その後に学生カルテシステムへ面談の記録を登録することから、当該システムを通じて、学生指導を行う教員、及び学生の各種窓口を担当する事務局の担当者が面談内容等の情報を共有しており、学生個々の状況に沿った対応をすることが可能となった。